

# Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：大塚裕司 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

## 2019年新春名刺交換会

2019年2月5日(火)午後6時より、毎年恒例となる「立教経済人クラブ2019年新春名刺交換会」が日比谷松本楼にて開催されました。

会は第一部の「講演会」と第二部の「懇親会」の二部構成にて行われました。

第一部「講演会」は河内一友様(株式会社MBSメディアホールディングス 代表取締役会長兼株式会社 毎日放送 会長)より、「片手に文化、片手にソロバン」-民放の現状と良心の必要性-と題してご講演をいただきました。(講演内容については4頁にご紹介しております。)河内様の講演は当クラブの「同志社大学との対外交渉事業」の一環として実現致しました。質疑も活発に行われました。

午後7時からは、第二部となる懇親会です。会員・ゲスト・来賓を併せ、約100名の参加者となりました。品川高穂総務委員長(H8経・株式会社 太平社代表取締役社長)が司会で開宴となりました。まず、大塚裕司会長(S51営・株式会社 大塚商会代表取締役社長)より、同志社大学の方、学院の関係の方、ゲスト参加の方へ本日まで参加頂いたことへの感謝を申し上げます。また、会長になり半年、会の為に何が出来るかかんがえております。今年は、消費税の変更、働き方改革、Windowsが変わる、水銀灯が廃止になるため蛍光灯が変わる等様々な事が変わります。

経済人クラブはEXECUTIVES & PROFESSIONALSですから、様々な問題に日々立ち向かわれていると思います。今日はこの会にて、リフレッシュし、新たな仕事に臨める場となればと考えておりますとご挨拶されました。

続いて、ご来賓を代表し、郭洋春立教大学総長より、同志社大学の方への感謝、築地キャンパスから池袋キャンパスに移転して100年ということで様々な行事を行うことができました。総長に就任して11か月がたちました、総長が変わると大学がすごい変わるかと思われてますが、やりたいことの2・3割しかできていないと考えております。今年から本格的に変革を起こしていきたいと考えております、昨年の5~6倍は活動していきますのでご期待頂きたい。また、経済人クラブはOB・OGの集まりの中で非常に活発で大学にもご貢献頂いております。現在150周年記念募金の一環として、大学へ50万円以上ご寄付頂いた方には、池袋本館2階に名盤を永久に残す懸賞、5万円以上で立教キャンパスのナノブロック、10万円以上で立教オリジナルワインを進呈



致しますので、今後ともご協力お願い致しますとご挨拶されました。

続いて、白石典義立教学院理事長より、昨年の8月1日に第18期の理事長に就任致しました、同志社大学とも体育会長時代から懇意にさせて頂きました。経済人クラブとも約20年お付き合いをさせて頂いております。理事会と大学は、経営と教学ですから均衡を保つことがモットーであると考えております。大学がチャレンジすることに関して、お金がかかることは理事会は強力していきたいと考えておりますとご挨拶されました。

その後、来賓の方々のご紹介を司会者よりさせて頂き、さらに9名の新入会員の紹介と記念撮影を行いました。

続きまして、和田成史立教大学校友会会長より、大塚会長がある出来事で急に当クラブ会長になったとお話しされましたが、実は戸井田前会長が立教学院の常務理事に就任することが決

まったのが、当クラブ総会の一週間前でしたので急遽大塚会長にお願いした次第であります。新入会員の方は本日は突然5億円の寄付の話でビックリされたかと思いますが、校友会は総長の2024年への思いを実現していくのが目標ですので一丸となってご自身のペースで協力頂けますと幸いです。校友会事務局としては、第31回の企業職域立教会校友会が2月15日池袋キャンパスでありますので、ご出席の程宜しくお願い申し上げますとご挨拶頂きました。その後、乾杯のご発声をいただき、懇親会がスタートしました。松本楼の美味しい食事とお酒に加えて、同友、先輩、後輩等様々なつながりの中で、今回は同志社大学の方々や、大塚会長、和田校友会会長を囲んで大いに話に華が咲きました。

最後に、伊藤守副会長に一言ご挨拶をいただき、中締めをしていただき閉会となりました。

—村上 直人 H6立高一

## 朝食勉強会

## 「AI / IoT / XR。最新テクノロジーとの付き合い方」

講師：澤円氏

2019年3月5日(火)に本年度第2回目の朝食勉強会が、シャングリラホテルにおいて開催されました。今回は、日本マイクロソフト株式会社にて業務執行役員を務められながら、プレゼンテーション・コミュニケーションにまつわる講演や研修を精力的に行い、2017年に株式会社「圓窓」を立ち上げられた澤円(さわ まどか)先生にご講演いただきました。澤先生は立教大学経済学部経済学科を1992年にご卒業後、生命保険のIT子会社勤務を経て、1997年にマイクロソフト(現日本マイクロソフト)に転職。情報共有系コンサルタントを経てプリセールスSE、競合対策専門営業チームマネージャ、ポータル&コラボレーショングループマネージャ、クラウドプラットフォーム営業本部本部長などを歴任され、2011年7月、マイクロソフトテクノロジーセンター センター長に就任されました。2015年2月、サイバークライムセンター 日本サテライトのセンター長も兼任、現在は日本マイクロソフト株式会社の業務執行役員に就役され、プレゼンテーションに関する講演を多数こなす傍ら、琉球大学客員教授及び数多くのベンチャー企業の顧問を務めていらっしゃいます。

数多くの執筆やプレゼンテーションに関する講演をされていらっしゃるごことから、非常にわかりやすく話に引き込まれるようなご講演となりました。

## AI, IoT, XRとは

通常は理系出身者がエンジニアになりますが、自分の場合は経済学部ですので文系出身でエンジニアの道を志すことになりました。そのため様々な苦労を経験致しましたが、その経験が現在の「わかりやすく説明する能力」となったと思います。現在は、日本マイクロソフト株式会社の業務執行役員というサラリーマンでありながら、個人事業主でもあり、プレゼンテーションの仕方、アンガーマネジメント(いらいらや怒りを自ら管理し、適切な問題解決やコミュニケーションに結びつける心理技術)、テクノロジーの説明などの仕事をしております。特にプレゼンテーションの仕方は昨年287回行っており今年には300回を超えたいと思います。

さて、本日の公演は最新テクノロジーであるAI、IoT、XRとの付き合い方ですが、皆様の中には漠然と以下のような疑問を抱かれていますか？

▷ AIが進化したら、人類はどうなるんですか？

▷ IoTって本当に安全なんですか？

▷ VRやARってビジネスに役立つんですか？

初見ではとっつきにくい言葉ですが、分かりやすく説明していきたいです。もちろんフランクな勉強会としたいので、途中で質問していただいで構いません。

まず初めに皆様に「現在のNew York Times一週間分のデータ量=18世紀の人たちが一生のうちに会う情報量である」という事実を紹介したいと思



ます。これは近年の高速の移動手段、通信が18世紀のそれと比較にならないほど発達しているということを示しています。このように情報があふれている現在においては、「世界に存在する全データのうち直近2年で生まれたデータの割合=90%」、つまり情報がずっと更新され続けている状態にあります。今後新しい通信方式である5Gの登場によりさらにこの割合は大きくなると考えられます。

また、データのStorage(保管されている場所)の7割がアメリカ、残り3割が中国となっています。さらに、オンライン上に存在するマネーの割合(仮想通貨除く)が93%となり、これは現金の流通量が7%しかないことを意味しています。したがってサイバー犯罪が起きやすくなり、お金を守ることが重要となっています。一例では、中国の都市部のコンビニの支払の67%がQR決済(ALIPAY+WECHAT)、22%がUnionPay(銀嶺カード)、残り11%が現金決済となっています。その他QR決済は、屋台での支払い、結婚式のご祝儀、物乞いの寄付まで広範囲にわたっています。一方日本では5割以上が現金決済となっており、これは先進国では異常に高い数値となっています。

QR決済が進むと、ありとあらゆるものがデータ化されます。例えばオンラインショッピングは、「コンテンツ」を買っているといわれます。皆様もネットで注文するときには、値段、口コミ、サイトが勧める他の製品などのデータを検討して買っていると思います。

今後全ての企業はテクノロジーカンパニーになると考えられます。つまりデータになっていなければこの世に存在しないものと考えられ(データドリブン)、データを基準に企業は判断し営業活動を行うようになります。紙とペンで仕事していると何が問題でしょうか?紙はその場所に行かないと情報を得られないため、そのための移動コストがかかります。一方、データにすることによってその場に移動しなくても情報を得ることができます。このように時間を削減することによって、企業

や個人の行動がより早く効率的になります。

日経XTECHの木村岳史氏は時代を以下のように整理しています。

80年代~90年代 コンピュータの時代(ハードウェアの時代)

2000年代 ITの時代(ソフトウェアの時代)

2010年代 デジタルの時代(データの時代)→デジタルトランスフォーメーション

80年代~90年代と2010年代の時価総額ランキング Top10を比較すると、この時代の区分けの証明になります。平成元年は日本企業7社(銀行、通信など100年以上歴史のある会社)がTop10を占めていました。この時代は付加価値を増やす企業、つまり1を100にする工夫が強い企業が世界を席巻していました。一方で、平成30年では、アメリカと中国の会社のみとなり、そのほとんどがIT企業、投資会社といったテクノロジーやデータを取り扱う企業、つまり0を1にするスピードの速い企業が世間を席巻しています。世の中は、「デジタルトランスフォーメーション待たなし」の環境にあります。

## AIの特徴

AIの特徴は人間のように画像および音を認識し、そのデータの相関関係が分析可能な点です。たとえば、写真に写っているものを全て文字化することができます。一例として写真の女性(澤先生の奥様)を顔認証ソフトにかけると「Young, Girl」などの特徴を文字化することができます。たとえ本人の風貌が変わっていても顔認証ソフトでは同一人物としてとらえられます。人間が実際に行う顔認証の誤認識は5%と言われており、現在のAI技術では3%を切るようになりました。よって、今までは人間が目視して行っていた仕事が自動化され、交通量調査のような仕事が将来無くなる可能性が高くなります。

また、画像だけでなく音も認識することができます。

一例として、ドライブスルーの会話を聞いてみましょう。人間の耳では何をオーダーしているか聞き取れない部分があります。これを音認識ソフトに賭けると、音質の悪い音源でもオーダーを正確に識別することができ、さらにはデータ化されているため後からオプションで「ケチャップ無し」などの好みも最初のオーダーにさかのぼって適用し、当該正確なオーダーが調理場に自動で届く仕組みになっています。

### IoT

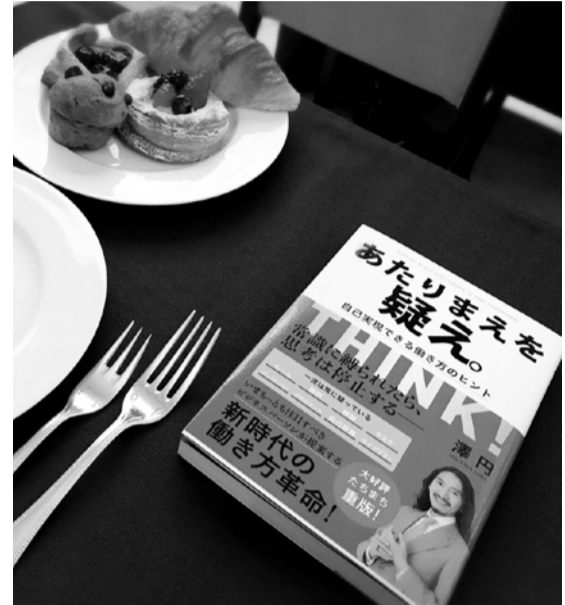
IoTとはInternet of Thingsの略でモノがインターネット経由で通信することを意味し、Intelligent Cloud、Intelligent edgeともいわれます。言葉だけでは分かりにくいので、実際の例を見てみましょう。航空機エンジン製作会社であるロールスロイス社のIoT技術です。パイロットがフライト前にエンジンの調子をデータを見てフライトプランに反映させるシステムです。エンジンの各機能にセンサーを付けてデータ化し、そのデータをパイロットが即時に判断、整備時期の前倒しリクエスト等がPC上で全てオーダーすることができます。今までは紙でチェック、メカニックと協議、紙でオーダーという時間のかかる方法でしたが、IoTによって即座に整備リクエストをすることができ、飛行機の安全航行に役立っています。

もう一つ例を見てみましょう。これはある会社のエレベーター前の映像です。人が近づくとエレベーターが自動で開く仕組みになっています。人の歩く方向や筋肉、視線の動きをITが判断し、前もってエレベーターを呼ぶことができます。

これらの技術は、僻地での災害救助でも役立ちます。カメラやドローンで状況を認識し、車載サーバーで分析、洪水地域の映像で救援トラックの必要性、救助を求めている人数、修復が必要な場所を、画像を録るだけで判断することができます。

### XR

XRとは、VR(Virtual Reality: 仮想現実)、AR (Augmented Reality: 拡張現実)、MR (Mixed Reality: 複合現実)という技術の総称です。実際にXR技術をデモンストレーションする前に今までのビジネスの流れを整理してみましょう。例えば病院の医師は、3D(触診)→2D(レントゲン、カルテ)→3D(治療)というステップを踏みます。この変換にリスクとコストが生じるのが現状です。これをXRでは全て3Dの世界にすることでリスクとコストを削減します。ではデモンストレーションします。ここにヘッドマウントコントローラー(約30万円)があります。このヘッドマウントコントローラーは画像造影とパソコンの機能を併せ持ち、目の舞にPCがあって指先で操作できることが従来の物との違いです。例えば、家具を買うときは店で現物を見て(3D)、それを写真に残し(2D)、実際に購入して部屋に置く(3D)というステップを踏みますが、このヘッドマウントコントローラーはそれをこの機械一つで一瞬に行います。今見えているのはこの部屋の画像です。ここに実際の実寸大の家具を置いて大きさのシミュレーションができます。つまり、模型や設計図を作る時間とコストが削減でき、移動しないスピーディーなビジネスを行うことができます。



### 機械ができない3つのこと

これまで最新技術について解説しましたが、機械では以下のことができません。

- ▷ クリエイティブであること
- ▷ リーダーシップを発揮すること
- ▷ 起業家精神を持つこと

つまり、AI/IoT/XRなどの技術革新が進んでも、この3つが人間のみが行える仕事になります。言い換えれば、デジタルをもっと楽しく活用しながら、面白いもの、正解なんてない創造的なアイデアを、アンテナを立てて、いつだってスタートラインに立ちながら、常に何かを発信するようなビジネスの進め方が今後求められると思います。 —新美 智彦 H9産—

### 世代を超えた勉強会



2019年2月20日(水)19:00より池袋「立山」にて世代を超えた勉強会が行われました。世代を超えて楽しめるテーマで、学びを深め交流することを目的とした勉強会です。今回は、学校法人自由学園最高学部長、立教大学名誉教授としてご活躍されている渡辺憲司先生にご講演いただきました。文字通り幅広い年齢層24名の方々がご参加くださいました。

講演テーマは「江戸は優しい—粋なヒューマンストーリー—」。

テーマに相応しく会場は立教大学野球部OB・横山さんのうどん屋にて、居酒屋談義として和やかに行われました。

江戸時代から続く遊びの世界の美意識「粋」。

歴史ある吉原でのしきたり、振る舞い、そして渡辺先生のユーモア溢れる語り口には参加者からも感嘆の声が上がるほど。

粋な世界、野暮な行為。

吉原の世界では、相手に年齢や出身を聞くなどは野暮とされる、決して真実は語らない。

それが粋な世界でもあります。

江戸時代の情緒に触れることができた貴重な一夜となりました。

—岡本 省吾 H18経—

## 新春名刺交換会講演会

## 民放経営は「片手に文化、片手にソロバン」

—民放の現状と良心の必要性—

講師：河内一友氏

株式会社毎日放送 会長  
同志社メディアクローバー会 会長

## ① 民放の現状

昨今テレビ離れと言われておりますが、2018年1日あたりのテレビ平均視聴時間は3時間34分となっております。では過去に遡って資料を見ますと、2008年では3時間45分と実はほとんど変わっていない。(NHK放送文化研究所・テレビ視聴時間の推移) テレビは見ないと言う人は多いのだが、意外や意外、統計をとってみるとこういった事実があります。

われわれは民間放送ですので、広告収入でなっています。では、テレビの広告市場はどうなっているかという、年間1兆9,400億円です。((株)電通・2017年調べ)

一時期下がった時期もありましたが、その後は上がった下がったりで同じような金額で推移しております。しかし、民放連研究所2019年時点の予測でインターネットの広告費は2026年には、マス4媒体(テレビ・新聞・雑誌・ラジオ)の合計を抜くだろうと予測されております。

ですが、この先予想どおりに推移していくか私は疑問に思っております。なぜかと言いますと、テレビは放送計画書というもので「何時何分何秒にこの広告放送しました」と広告時間を把握することができますが、インターネットでは完全に把握することができません。又、不健全な画面にCMが挿入されていることもあります。世界に目を向けますと、プロクター・アンド・ギャンブルやネスレがインターネット広告を止めると話が出たこともありました。実際に止めたかは未確認ですが、それだけインターネット広告に懐疑的な見方もあるということでございます。以上を踏まえ、インターネット広告がこの予測通り本当にいくのかと疑問に思っております。

次にテレビの視聴率の話をご紹介します。視聴率の調査として男女別・年齢別等様々な方法がありますが、皆さまが目にするのは世帯視聴率というものでございます。当社は、ローカル番組・全国ネットの番組も放送しております。放送エリアは、近畿1,000万世帯、全国ですと5,800万世帯を網羅しております。ではローカル番組で10%視聴率あるとすると、約100万世帯(約210万人)が見ていてくれ

ているということです。全国ネット番組では580万世帯(約1200万人)に電波が届いていることになります。非常に、TVのパワーは伝達力が強い・影響力があるということが言えるかと思えます。

ところで、テレビの画面精度は、2K・4K・8Kとあります。私たちが現在見ているのは2Kです。NHKが今目指しているのが8K。現在の200万画素数が約3,300万画素数になるというわけです。今人間の目で見ているのが8Kの世界です。2020年には実現しようと言うのが、NHKです。

そのNHKについてですが、最近民放寄りの番組作りになっていることが気になっております。受信料収入が年間7,000億円もあるにも拘らず、番組の創り方、宣伝等が視聴率狙いの民放寄りになっている。予算を活かしたNHKらしい番組を作ってくれることを望んでいる次第です。

## ② 民放経営の方針 —私の場合—

さて私共は民間放送ですから、広告収入を集めないといけない。だから良い番組を作らなくてはいけない。だから視聴率も上げる必要がある。では、視聴率を上げるために何をしても良いのか。

そうではありません。なぜなら、民間放送のチャンネルは自分たちのものではない。国民の財産であり、総務省から5年間割り振られている免許事業なのです。電波をお借りしている責任を感じないといけないと考えております。又、先ほど申しましたとおり、非常に強い影響力を持っています。そこで評価が視聴率だけで良いのだろうか、と考える必要もあるわけです。視聴率を上げることだけにフォーカスしてしまうと、無いものをあたかもあるように放送してしまうことも起こってしまいます。いわゆるねつ造番組です。そこでNHKと民放でBPOという自助作用を促す組織が作られました。規律を破った場合厳しい処置を行います。BPOには不確かなものも含め、苦情が2017年には21,000件ありました。それだけ国民のTV番組への関心が高いといえます。BPOでは一件ずつ調べ対処しています。やって良いこととダメなこと、この判断基準は関係者の教養であろうと考えております。

教養と言いましたが、一言では定義が難しいのですが…。教養は単なる知識ではなく、知識が心の中に入り熟成しているものであります。その教

養を育てることが文化だと会社で話しています。我々の使命は、視聴者やリスナーの生活に役立つ、幸せな気持ちや幸福な気持ちになって頂くこととあります。ただ、それだけでは視聴率は上がらず、広告収入が入らない、すると経営が上手く行かない。ですが、収入ばかり意識しても上手く行かない。ですから、「片手に文化、片手にソロバン」このバランスをとりながら精度を高めていく。これが経営の根本であると申し上げたいのです。

## ③ 大学に求める良心教育

教養豊かな学生を大学には育ててもらいたいと考えています。産学連携という言葉がありますが、企業側は大学に「すぐに役立つ人材を育てて欲しい」と言っています。こういう時使う人材とは、人間ではなくモノとみているのではないかと感じてしまいます。むしろ私の希望は、豊かな教養を持った人間を大学には育てて頂きたい。リベラルアーツを学習してから様々なテクニックを学んで頂きたい。技術は会社に入れば教えます。我々の仕事はアウトプットの世界です。そのためにはたくさんのインプットをする必要があります。インプットのひとつは読書でしょう。大学生は一年に何冊本を読むだろうか。最近では本当に読んでいない。手先の器用さだけでは、社会で通用しなくなってしまうと常々思っています。大学の4年間、そこで充実した教養を学んでいただきたい。

最後に、同志社の校祖新島襄の言葉を紹介します。それは、「良心の全身に充滿したる丈夫(ますらお)の起り来(きた)らん事を」という言葉です。同志社はキリスト教主義、国際主義、自立主義を教育方針として掲げています。同志社でその教育方針のうえに良心を学んだものが、経済界・教育等の世界に行って活躍して欲しいという意味です。新島襄は必ずしも宗教者、牧師になって欲しいとは言っていません。良心を持って、あらゆる世界に飛び出せと言っているのです。

このような教育方針の同志社大学を卒業したことを、私は誇りに思っております。

(追) 私の娘は、立教大学の卒業生です。

—村上 直人 H6立高一—

## 戸井田和彦氏、井形博史氏、品川高穂氏をお祝いする会

2018年11月20日(火)「戸井田和彦氏、井形博史氏、品川高穂氏をお祝いする会」が飯田橋のイタリア料理ピアットにおいて開催されました。立教経済人クラブ戸井田和彦最高顧問が学校法人立教学院常務理事に、井形博史副会長が三井金属アクト株式会社代表取締役社長に、品川高穂総務委員長が株式会社太平社代表取締役社長に就任されました。

昆凡子理事の司会により会がスタートし、井口一世事務局長による開会の挨拶

後、お祝いの挨拶を倉石昇顧問、乾杯の挨拶を上原洋一顧問と続いていきました。三氏のプロフィールの紹介後、それぞれからお礼の言葉を頂きました。苦労話や、失敗談など、今に至る様々なエピソードを交えたお話でした。その後は全ての出席者からのお祝いの言葉が続くなど、出席者全員で三氏の今後のさらなる活躍を祝う盛大な会となりました。

—飯泉 斉 H10法—



## Christmas Party 2018



2018年12月12日、六本木の国際文化会館にて、今年も「2018クリスマスパーティー」がとり行われました。当会館は、江戸時代は多度津藩の江戸屋敷として、明治時代には当時の外務大臣である井上馨侯爵邸として、その後の変遷を経て三菱財閥創始者岩崎彌太郎の甥である岩崎小彌太が所有していた3000坪の日本庭園を、ロックフェラー財団

をはじめとする内外の諸団体や個人からの支援により設立されました。都内のど真ん中、六本木とは思えない落ち着いた雰囲気のある会場で美しい庭園を見ながらの開催、立教経済人クラブに相応しい洗練されたスタイルの空間でした。

今回は過去最大級、会員42名、ゲスト32名(チャプレン含む)、子供5名、総勢79名の方々に参加いただきました。開会にあたり大塚会長のご挨拶、聖書朗読と立教大学宮崎チャプレンによる祝福と感謝の祈りをおさげしたのち、盛大に洋食立食によるパーティを開催いたしました。男声聖歌隊の東京クライストシンガーズによるクリスマスソング

を聴きながら大いに懇談の後、毎年恒例の全員争奪ビンゴ大会(商品持ち寄り)を開催いたしました。ビンゴ大会では大塚会長から特別賞として宿泊券のご進呈をいただき、リーチ一番乗りの岡本章吾(H18年卒経)氏が見事獲得いたしました。そのほかの方々も皆様全員それぞれお目当ての豪華賞品をお持ち帰りいただきました。子供たちへは会場のデコレーション風船もプレゼントいたしました。立教らしい雰囲気に包まれた会も最高潮を迎えたところで定刻の21時を少々回り、井形副会長による3本締めにより、名残惜しみながら散会となりました。

今後とも様々なイベントを予定しておりますので、皆様是非ふるってご参加いただければ幸いです。 —新美 智彦 H9産—



## ウェルカムナイト

2018年11月21日(水)19:00より、「仏蘭西料理ボア・ド・ブローニュ(日比谷松本楼3階)」にて、本年度第2回ウェルカムナイトが開催されました。ウェルカムナイトは、新入会員になった方を中心に、新入会員同士や既存会員との交流を深める親睦を目的とした会です。

師走近づく慌ただしくなってきた時期でございましたが、新入会員4名を囲み会員7名の計11名の参加となりました。

開会のあいさつの後に、お一人ずつ自己紹介をしていただきました。ウェルカムナイトとしては珍しい着席スタイルでの開催ということもあ

り、開始直後は参加者に緊張の面持ちも見られましたが、1つのテーブルを皆で囲み食事をとることで、すぐに打ち解けリラックスしながら、ビジネスやグルメ等について話に花が咲きました。

参加いただいた会員の皆様には、交流を深めていただけたことで今後の様々なイベントへ参加いただける契機になったのではないかと感じております。



今後も種々イベントがございますので、ご参加をお待ちいたしております。

—小田切 理紗 H21法—

## ウィリアムズ主教が召し上がった日本茶を訪ねて

### 第8回(最終回):崇福寺にウィリアムズ主教の面影を訪ねて

昨年12月、東京よりは温かいとはいえ真冬の長崎に黄檗宗聖壽崇福寺を訪ねてまいりました。

第6回で書きましたとおりこちらにある高德院がウィリアムズ主教が伝道のため日本に初めていらした際にお住まいになっていた住居です。

高德院を訪ねて、何かお茶につながるようなものを見つけたいと、宿泊していた長崎駅前から路面電車で10分、そこから歩くこと5分ほど、胸を躍らせながら向かいました。

門をくぐり、大雄宝殿や媽祖堂を巡り、美しさや歴史に感嘆しつつも、高德院に向かう道筋を示すものを見つけられず何度もぐるぐる。。。券売所に戻りスタッフの方に訪ねることにしました。

高德院は今はなく、かつてあった場所は個人のお墓になっていることを伺い、愕然。。。高德院含

め庵があった崇福寺の後山は墓地になっていたのです。

せめて在りし場所にご挨拶をと、教えていただいた順路をたどって探し当てようとしたのですが、急斜面に所狭しと作られたお墓は迷路のようで迷子に。

お墓の修理をされていた親切な地元の方が一緒に探してくださりましたがなかなか見つからず、ギブアップ!券売所にご挨拶して帰ろうとしたのですが、もう一度だけ!と震える膝に鞭うって急な斜面を再び登ること数分、ついに訪ねあてました!きっと導いていただいたのですね。まるでお会い出来たかのように感動がとまりませんでした。

長崎では釜炒り茶は作られなくなり、今は保存活動をする協会と復活を試みている農家さんが一

軒あるのみとなっています。召し上がっていたお茶の特定まではできませんでしたが、ここまで来ることができ、とても満ち足りた気持ちです。

ウィリアムズ主教が召し上がったお茶を訪ねる旅は今回で終了となります。お付き合いいただきましてありがとうございました。またお目にかかれまして幸いです。 —満木 葉子 H10心—



国宝に指定されている第一峰門



高德院の跡地。今は岡部家のお墓。

[プロフィール]

満木葉子(みつきようこ)

株式会社ねこばんち代表取締役/

一般社団法人日本茶アンバサダー協会代表理事

☆日本茶応援サイト『ENJOY!日本茶』

www.nihoncha.org/

☆株式会社ねこばんちFBページ

www.facebook.com/kabushikigaisyanekopanchi/

## 第74回立教経済人クラブゴルフ会



2018年12月2日、立教経済人クラブゴルフ会が開催されました。

今回は埼玉県入間市にあります狭山ゴルフクラブです。日本オープンゴルフ選手権の会場にもなった名門コースです。グリーンの手前まで池があったり、またその池からグリーンを囲むようにクリークがあったりで、ハーフで2～3個の池があります。

バンカーもフェアウェイに3個、グリーンまわりに3個と言う具合で落とすところ、狙いどころがとても難しく思いました。天気にも恵まれ、秋晴れとはいきませんが、薄日がさし風もなくこの時期にしては良かったです。グリーンは絨毯の様に滑らかでした。上につけると早くてたいへんでした!

逆に上りはそれほど早くなく、しっかり打たないとかなりショートしてしまいます!!

さて、この戦略的なコースで優勝は48:41!の89でまわりました品川高穂さんでした。このコースを89、しかも41とは立派です\(^o^)/  
優勝トロフィーと副賞の二万円相当のグルメチケットをゲットです。  
準優勝は47:41!の88でまわりました加藤英樹さんでした。これもまた立派なスコアです\(^o^)/

準優勝のトロフィーと副賞の景品、そしてバスグロ賞品と大漁です。いつもの様に賞品には有名なワイン、日本酒、焼酎が並びとても迷ってしまいます。

私は大好きな日本酒をいただきました。

参加者全員に賞品があることもこの会の特徴です。特にお酒が(^\_^)

ドラゴン賞、ニヤピン賞もありますヨ!

今回は女性の方がドラコンを獲得されていました。男性女性、また初心者から上級者までいらっしゃいますが、初心者の方もお気軽にご参加頂ける会です。

和やかに盛り上がり楽しいパーティーとなり、最後に恒例の記念撮影でお開きになりました。次回は2019年7月の予定です。

皆様のご参加をお待ちしておりますm(\_)\_m

—長倉 一裕 S59法—

# 建学の精神をたづねて

## リベラルアーツが創造する世界

自虐史観からの解放

平成から新元号の今、江戸から明治への大変革で起こった「廃仏毀釈」という自虐的行動を検証する

神保町シンクタンク 黒田裕治(78年3月 法学部卒)



廃仏棄釈で破壊された石仏

グローバル・リベラルアーツを標榜する母校ですが、大学を卒業すると学士(Bachelor)がもらえます。

リベラルアーツの大学を卒業、授与される学位は専攻した科目によってBA(Bachelor of art)BS(Bachelor of science)のどちらかです。アーツは「arts」で、単数形なら「art」。日本語訳で「芸術」。科目で美術や音楽ですが、artの本義は「諸芸」と呼ぶものに近似し、「芸術」という言葉は「芸」と「術」つまり、芸能と技術のこと。欧米では、文学や歴史、哲学、美術、建築、音楽等全てアートです。artの対義語はnature、つまり自然です。natureは(things God made)つまり神が創ったもの。反対にartは(things humans made)人が作ったもの。サイエンスとは「nature=神が創ったもの」を研究すること。つまり学問におけるサイエンスとは、この世の人間が作ったもの以外の全てを学び、研究することです。日本の「科学」「理科」という概念とは少し違いますね。サイエンスは「natural science(自然科学)」と「social science(社会科学)」です。自然科学は、自然現象が対象です。社会科学は、自然界の一部としての人間社会を対象にしています。そのため、心理学も経済学も社会科学に属しています。(日本ではどちらも文系扱い)

artは「作る」もの、scienceは「解き明かす」ものです。今までに何度か取り上げて参りました「リベラルアーツ」ですが、新元号が発布される今、リベラルアーツの観点から 明治の冒頭に起きた、日本文明の最大の危機とも言える「廃仏毀釈」運動、さらに その自虐(自国文明の破壊行動)から日本の文化を救い出した、外国人の軌跡もたづねてみます。

1 廃仏毀釈とは:大政奉還後に成立した新政府によって慶応4年3月13日(1868年4月5日)に発せられた太政官布告(通称「神仏分離令」「神仏判然令」)、および明治3年1月3日(1870年2月3日)に出された詔書「大教宣布」などの政策を拡大解釈し暴走した民衆をきっかけに引き起こされた、仏教施設の破壊などを指す。日本政府の神仏分離令や大教宣布はあくまでも神道と仏教の分離が目的であり、仏教排斥を意図したものではなかったが、結果として廃仏毀釈運動(廃仏運動)と呼ばれた破壊活動を引き起こしてしまう。神仏習合の廃止、仏像の神体としての使用禁止、神社から仏教的要素の払拭などが行われた。祭神の決定、寺院の廃合、僧侶の神職への転向、仏像・仏具の破壊、仏事の禁止などが見られた。明治4年正月5日(1871年2月23日)付太政官布告で寺社領上知令が布告され、境内を除き寺や神社の領地を国が接収した。(Wikipedia 参照)

2 なぜ起こったか:なぜ明治維新は寺院を破壊したのか 明治政府は千二百年にわたるこの国の神仏混淆(こんこう)とその習俗を排斥しようとした。古代より引き継がれてきた仏教文化さえも旧態依然とした徳川幕府による宗教体制として嫌悪した。その理由のひとつに、天下は取ったものの明治新政府にはいかなる展望もなかったこと、それゆえにこの国

と民を一括(く)りにするだけの強力な国体論を持つことが何より急がれたという事情がある。徳川幕府を否定するための思想的基盤として、水戸学はじめ神道による国体論が脚光を浴びることになった。王政復古、祭政一致を求める天皇制権力構造の下、国家神道を確立させることこそ、明治政府が目指した近代国家像であった。以来、国民には徹底して明治維新を肯定し、美化する教育がなされた。これは太平洋戦争終結まで続いた。しかし、疑問は残る。仏教的要素の排斥を命じた明治新政府に、なぜこの国の民衆は易々(やすやす)と従ったのか。廃仏毀釈により破壊された国宝的文化財の数は、「現在の国宝の約三倍」にのぼるといふ。しかし、一般の人々がここまで暴虐を働いたことには、それだけの理由がなくてはならない。(なぜ明治維新は寺院を破壊したのか 鶴岡秀徳 著参照)と、まあこんな背景があったとはいえ、こうも簡単に当時の最高峰の伝統技術をふんだんに注いでつくられた仏像や寺院の宝物を壊し、薪にしたり、外国人に破格の値段で売ったりしたのだ。

3 自虐史観:太平洋戦争(大東亜戦争)後の日本の社会や歴史学界、教育界における特定の歴史観を批判・否定的に評価する言葉である。日本の歴史の負の部分を中心としてさらに強調する一方で、正の部分を通小評価し日本を貶める歴史観のことを指す。(Wikipedia 参照)

自虐史観は戦後の日本人の思考や行動に特徴的にみられる現象を指しています。戦後からと一般的には言われていますが、拙は江戸末期から明治初頭の頃の日本人に、すでに現れていた思考現象の一つではないかと思っています。「ペリー来航」という形で「文明の衝突」(『文明の衝突』(ぶんめいのしょうとつ)は、アメリカ合衆国の政治学者サミュエル・P・ハンティントンが1996年に著した国際政治学の著作)という異文化に遭遇した時に人類がとる「行動と思考」が自虐という形で現れるのでしょうか。吉田松陰や勝海舟や坂本龍馬、西郷隆盛にその行動を求めるまでもなく、圧倒的なエネルギー機関である「蒸気機関」の船や汽車の技術を持っている外国に、ただただひれ伏し、あるいは懐き、あるいは憧れる行動の一つに自虐という行為があったのだと思います。

しかし、その混乱に乗じて、原因は仏教文化にあり!仏像というシンボルに転嫁して徳川政権の江戸時代、江戸文化をアタックするように新政府が仕向けたのです。そして近代国家建設は驚異的な短期間の間に成し遂げられたのでありますが、失ったものも大変大きかったのです。そんないびつな近代化を修正してくれたのも実は、外国からのアプローチでした。

\*アーネスト・フランシスコ・フェノロサ(Ernest Francisco Fenollosa, 1853年2月18日 - 1908年9月21日)は、アメリカ合衆国の東洋美術史家、哲学者で、明治時代に来日したお雇い外国人。日本美術を評価し、紹介に努めたことで知られる。廃仏毀釈を経て、また

西洋文化崇拝の時代風潮の中で見捨てられていた日本美術を高く評価し、研究を進め、広く紹介した点は日本美術にとっての恩人ともいえ、高く評価されている。フェノロサが参加した古社寺の宝物調査は、文化財保護法の前身である古社寺保存法の制定(1897年)への道を開いたものであり、東京藝術大学の前身の1つである東京美術学校の開校にも関わるなど、明治時代における日本の美術研究、美術教育、伝統美術の振興、文化財保護行政などにフェノロサの果たした役割は大きい。また「国宝」(national treasures)の概念は彼が考えた。

\*エルヴィン・フォン・バルツ(独: Erwin von Bälz、1849年1月13日 - 1913年8月31日)は、ドイツ帝国の医師で、明治時代に日本に招かれたお雇い外国人のひとり。27年にわたって医学を教え、医学界の発展に尽くした。滞日は29年に及ぶ。日本の温泉の素晴らしさを海外に伝え、また、歌舞伎等の伝統芸術を理解し海外に広めた。

今回の結論:リベラルアーツの興味深い点は、古代ローマであれ、21世紀の現代であれ、時代がどんなに変化しても自由を獲得するための題材は同じであることです。それは、この学問が普遍的な学びを元に行っているからに他なりません。そして、このスキルが今も学ばれ続けている事実は、同時に、時代を超越して必要とされていることも示しています。1874(明治7)年、米国聖公会の宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教によって設立された「立教学校」。東京・築地に聖書と英学を教える、わずか数人の生徒で始まったこの小さな学校が立教大学の前身です。ウィリアムズ主教は、当時の「実利主義」や知識、技術を物質的な繁栄と立身出世の道具とする日本の風潮をよそに、ここを「キリスト教に基づく真の人間教育を行う場」と位置づけました。現象にとらわれず、常にその本質に迫ろうとする自由の精神、そして個性を重視した人間教育。これこそがウィリアムズ主教が説く「リベラルアーツ」が今必要なのはこの地でしよう!と思ったに違いありません。明治時代の当初に、多くの民衆がリベラルアーツという知恵を持っていたら、廃仏毀釈という自虐行為の不毛を見抜けたはずと思えてなりません。二度と同じ過ちを繰り返さないためにも、新元号が始まる今、リベラルアーツという素晴らしいスキルをさらに磨いて「自由な思考」(※自ら創造したARTSからの思考も自由である。)を実践して参りましょう!

参考  
立教大学HP  
なぜ明治維新は寺院を破壊したのか 鶴岡秀徳 著 文春新書  
Wikipedia

プロフィール  
1955年7月4日 広島県尾道市生まれ  
立教高等学校 立教大学を経て  
近畿日本ツーリスト株式会社勤務  
2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、  
現 神保町シンクタンクを主宰

## 新しく会員に なられた方々

(敬称略)

**内田 彩** 平成23院観  
千葉商科大学  
准教授  
〒272-8512 市川市国府台1-3-1  
研究館R320  
TEL:047-373-9752  
大学教員

**伊藤 義剛** 昭和58営  
岩崎電気(株)  
代表取締役社長  
〒103-0002 中央区日本橋馬喰町  
TEL:03-5847-8612  
FAX:03-5847-8642  
E-Mail:itou-yoshitake@eye.co.jp  
電気機器製造業

**栗原 亮介** 平成19国比  
弁護士法人ENISHI  
弁護士  
〒190-0012 立川市曙町1-30-21  
立川井上ビルB1-1  
TEL:03-6833-8802  
FAX:042-633-0742  
E-Mail:r.kurihara@enishi-law.com  
パートナー弁護士

**洲崎 智広** 平成6営  
(株)フォーシーズホールディングス  
代表取締役社長  
〒810-0022 福岡市中央区薬院1-1-1  
ビジネスガーデンビル8F  
TEL:092-720-5460  
化粧品小売

**東海林 純一** 平成5社  
(株)ニューパック  
代表取締役  
〒354-0045 入間郡三芳町  
上富2056  
E-Mail:shouji@newpack.jp  
倉庫業 宅建業

**瀬田 陽介** 平成7法  
fjコンサルティング(株)  
代表取締役CEO  
〒101-0062 千代田区神田駿河台  
4-3-3F  
TEL:03-4570-8580  
E-Mail:seta@fjconsulting.jp  
コンサルティング

**清水 大地** 平成12数  
(株)フィールドマネージメント  
プリンシパル  
〒150-0001 渋谷区神宮前5-7-20  
神宮前太田ビル5F  
TEL:03-5778-4515  
E-Mail:daichi-shimizu@field-mgmt.com  
戦略コンサルティングと定着・  
実行支援、投資、人材育成

**半谷 淳平** 平成21営  
大成有楽不動産(株)  
不動産営業本部 主任  
〒104-8330 中央区京橋3-13-1  
TEL:03-3567-4543  
FAX:03-3567-6793  
E-Mail:hanya.j@taisei-yuraku.co.jp  
不動産業

**松永 勉** 昭和59史  
ビジョン(株)  
執行役員経営企画本部長  
〒103-8480 中央区日本橋久松町4-4  
TEL:03-3661-4204  
FAX:03-3661-4320  
E-Mail:tsutomu.matsunaga@pigeon.com  
育児用品製造販売(その他製造業)

**薬袋 洋子** 平成5史  
Language Experts Group Japan  
代表  
〒103-0027 中央区日本橋2-1-3  
アーバンネット日本橋2丁目ビル10階  
TEL:03-4405-9333  
E-Mail:yoko.minai@languageexperts.co.jp  
専門翻訳および言語技術

**山下 茂** 昭和56産  
ビジョン(株)  
代表取締役社長  
〒103-8480 中央区日本橋久松町4-4  
TEL:03-3661-4200  
FAX:03-3661-4324  
育児用品の製造販売

**若尾 裕之** 平成59営  
(株)未来総合研究所  
代表取締役社長  
〒104-0061 中央区銀座1-3-3-7F  
TEL:03-4580-9990  
E-Mail:ico@n08.itscom.net  
研修等の講師派遣、営業コンサルティング

**村上 由泰** 昭和61営  
(株)カネボウ化粧品  
代表取締役 社長執行役員  
〒103-8210 中央区日本橋茅場町1-14-10  
TEL:03-6745-3123  
FAX:03-6745-3007  
E-Mail:murakami.yoshihiro@kao.com  
化粧品製造業

## 夢を叶えるイメージの力

「ドキドキ・ドキドキ」と心臓の音が高くなる。次のバッターは私。試合は1対2で負けている。9回裏2アウトランナー満塁のチャンス。ここで打てばサヨナラ勝ち。しかし頭の中には「空振り三振・ゲームセット」の場面がよぎる。少年時代はいつもマイナスイメージが先行する子供だった。

そんな私が急に勝負強くなった。それはまず気持ち。試合に負けても死ぬわけではない。たかがスポーツじゃないかと考えた。おかげで緊張が弱まった。そして何より一番変わったのは、勝つイメージを描けるようになったこと。それに加え基本的な技術の確認と気合である。例えば今も続けているパドルテニス。優勝を決める大

事なリターンの場面では①パッシングショットが鮮やかに決まるシーンをイメージする②ラケットの上部にボールを当てることを確認③大きな声を出してラケットを振り抜く。その結果は埼玉大会優勝。全国大会予選ではチャンピオンにせり勝った。

そんな勝負強くなった私に妻が言った。「明日の誕生日プレゼントは満塁ホームラン頂戴」。翌日は健保組合の野球大会。場面は9回の裏、満塁で3点のビハインド。大きなプレゼントをする絶好のチャンスである。イメージは初球の外角高めをライトセンター間に打つ。よし思った通りのボールが来た。鋭い打球が右中間を抜けていく。絶対ホームラン、そう思い全力で2塁を回る。いけない、ベースを踏みそこなった。ここ一番で本当にとぼけた話である。

私の人生いつも最後の詰めが甘い。それは想像力が乏しいから。この時も打った打球が右中間を抜けるイメージで終わっていた。その後のベランとホームインが欠けていた。私の大きな課題はイメージ力不足である。今後は先々の場面まで思い描く習慣をつける。それも楽しく面白く。それを日々実践する。そうすれば私の夢「スポーツライター&パドルテニス日本一」これをきつと実現できる。

余談です。先日脳を活性化するイメージ力トレーニングを受けました。すると4つしか覚えられなかった単語を160個覚えることができました。イメージ力の凄さと可能性を強く感じました。

日経読み方アドバイザー 安尾圭司(S58産)  
keiji.yasuo@nikkeimp.co.jp

## 編集後記

今年3月21日に東京では、「桜の開花」となりました。桜と言いますと、出会いと別れの時期でもあります。昔から音楽でも「桜+出会い+別れ」は、定番中の定番。少しgoogleで検索したところ、154曲が見つかりました。恐らくそれ以上あるのではないのでしょうか。確かに学生では新学期が始まりますし、社会人では新しい社員の入社や人事異動も行われます。その年代ごとに、その時代にあった思い出の一曲があると思います。たまには、ゆっくりして桜の曲で昔を懐かしむのも良いですね。

さて、私の桜にまつわる思い出と言えば、お花

見です。どの業界でも当時はそうだったと思います。新入社員は「お花見の場所取り」が会社から与えられる重大任務としてありました。朝の6時には代々木公園に同期で集まり、一人は買だし、一人は場所取りしたのが良い思い出です。集まる先輩に、他社より良い場所を提供しようと張り切り、あの先輩が飲むビールの銘柄は〇〇なんて相談しながらワイワイ行きます。それでも、お酒の種類が少ないとか、ビールは泡が出ないように走って買ってこいと言われて、当時はかなりムッと致しましたが、今となっては鍛えてくれてたんだと感謝して

います。

昨今働き方改革が叫ばれ、上司と飲むお酒は業務かどうかなどと議論がされています。素晴らしい改正なのかもしれませんが、先輩たちと浴びるようにお酒を飲みながら、仕事ってどうあるべきか? プロってなんだ? はたまた、だからお前はダメなんだ! って怒られて悔しい思いをする時間が減るのは寂しいなと思います。自分も少し歳をとったつもりでしたが、まだまだ怒って頂ける先輩たちとも出会え、成長する機会を頂ける立教に感謝です。

一村上 直人 H6立高一